

令和7年度第1回小金井市気候市民会議 報告書

1. 小金井市気候市民会議の目的

「小金井市気候非常事態宣言」（令和4年1月発出）では2050年までのゼロカーボンシティの実現を目指している。その目的達成に向けて、市民が自分ごととして取り組むことができる地球温暖化対策に係る行動を検討し、実行するための行動計画等を提言としてとりまとめることなどを目的に、気候市民会議を実施する。

2. 第1回小金井市気候市民会議の目的

気候変動の問題や小金井市の現状について事前学習を行い、気候変動について理解を深めたうえで、小金井市の課題について意見交換することを目的とした。

3. 開催概要

テーマ	「再エネ、省エネにおける市の課題」 「まちづくり、ごみ、交通における市の課題」 「環境教育、参加協働における市の課題」
日時	令和7年7月6日（日曜）13時30分～16時45分
会場	市民会館萌え木ホール（商工会館3階）
参加者	無作為で選出された小金井市民 25名
スタッフ	小金井市職員、エヌエス環境株式会社職員 10名

4. 当日の流れ

13時00分～	受付
13時30分～	小金井市気候市民会議開会宣言（小金井市長 白井 亨）
13時35分～	気候市民会議の概要
13時45分～	「気候変動問題の現状と将来、その対策」 （法政大学名誉教授 田中 充 氏）
14時20分～	「小金井市の現状」（環境政策課長 岩佐 健一郎）
14時45分～	休 憩
14時50分～	グループワークの説明
15時00分～	1 ターム目：テーマ1「再エネ、省エネにおける市の課題」
15時15分～	2 ターム目：テーマ2「まちづくり、ごみ、交通における市の課題」
15時30分～	3 ターム目：テーマ3「環境教育、参加協働における市の課題」
15時45分～	4 ターム目：グループ意見の取りまとめ
16時00分～	休 憩
16時05分～	各グループ発表（5グループ）
16時30分～	第1回小金井市気候市民会議 総括（小金井市副市長 神山 伸一）
16時35分～	フィールドワーク及び第2回小金井市気候市民会議の説明
16時40分	ワークショップ終了

5. 開催風景



白井市長による開会宣言



田中先生によるご講演



小金井市の現状説明



グループワークの様子1



グループワークの様子2



グループワークの様子3



発表の様子



神山副市長による講評

6. グループワークの結果

①各グループ意見の整理

【意見分類】

●市民の課題

●事業者の課題

●市（行政）課題

●その他

【A グループ】

●市民の課題

ソーラーパネルのイメージが悪い、サ ギも多い	転入が多く市民ネットワークが築きに くい
不用品リサイクル シェアリング	コミュニティバス 認知度・使用して る？
分別	世代でカーボンニュートラル戦略を
省エネ教育	

●事業者の課題

シェアサイクルの拡充（公園前の渋滞 の緩和）	小金井公園内にシェアサイクルスポッ トがほしい
シェアリングサービスの拡大	ワークショップの共済
商工会と協力して教育会の開催	利用促進のイベント（まちづくり>他）

●市（行政）課題

ごみ袋に削減アピール 具体的な目標あるといい	ソーラーパネル、遮熱塗装などおすす め業者（サギじゃない）の一覧表がほ しい
再エネ居住の拡大（たてかえ）（値 段）	補助金の充実
見える化の施策	外で涼める場所を増やす
ごみゼロは理想が高すぎる	小金井ごみアプリすごく使ってます！
コミュニティバス ルートと利用率	省エネ 自転車置き場を増やす
渋滞が多い 小金井街道	市のホームページが使いにくい
情報アクセス	X アカウントが細分化されすぎ 情報 が取りづらい
補助金 何があるかわからない 市？ 都リンク？	ワークショップの情報をもっと見える ところにほしい
小金井公園など 大きな公園でのイベ ント	立川では団体同士の連携がある
ネット上でのコミュニティ	学習するメリットをもっと示す

もう少し緑の部分が増えるとよい	ある自然を守る⇒特に農地。減らさない、増やす。取組はあるか？
野川の草刈りとか企画してください！	緑が多くて良い

●その他

住宅メーカーへの要望（省エネ）	発電事業者への要望（再エネ）
町内会の入り方がわからない。回覧板ほしい。	



【B グループ】

●市民の課題

再エネ・省エネの知識不足	再エネ 先手（値段が上がる）
使えそうなごみはリユースのシールを貼る	緑地化 庭化
電車やバスを積極的に利用	意識
一人一人が気をつける	自分ごと自己意識

●事業者の課題

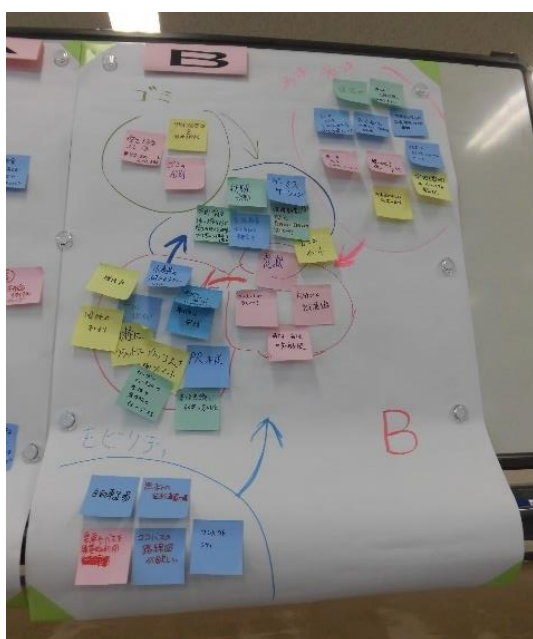
省エネイベント	太陽光パネルの設置説明
リサイクル場窓口を分かりやすく	カッコよさ スマート
宅地（敷地）の小さな緑化	気軽に フラットに
団体のまとめ	推進力

●市（行政）課題

制度の発行	再エネ・省エネの啓蒙・強制力 助成
太陽光パネルの設置推奨エリアの周知	シェアハウス（ホテルみたい）全体空調（ソーラー）
小金井の緑を好きになる	住宅や緑地のルールの工夫
無料の自転車置場	自転車置場
ココバスの路線図がほしい	コンパクトシティ
生涯教育 大人も知る機会を	参加しにくい
PR 不足	現状のメリットの活用 柔軟性

●その他

省エネ意識の効果の見える化	再エネの選択肢 技術革新
市内学校（主に大学など）で学生の徳方施策について考える機会を増やす	環境教育のアピール 具体的にできることを（子どもから）
値段が高い	体験活動
カーボンニュートラルの生活を具体的にイメージする	



【C グループ】

●市民の課題

再エネ設備の導入（コスト・スペース）	省エネ機器の導入
再エネ普及の要となるであろう家庭への導入・取付・維持コストの経済的課題	ペイできるのか（再エネ）
家庭ごみの削減	リサイクル品を多く使う
危機感があまりない	意識の改革
再エネ・省エネに対する意識の低さ	SNS 等での周知を増やしてほしい
認知度が低い	気候変動に対して自分が何ができるのかの周知
緑地化の整備	草ぼ一ぼ一多い

●事業者の課題

不動産業者と協力して再エネ設備が付いた部屋を増やす	交通渋滞削減に向けた取り組みを
食品ロス減らす	リサイクル店の展開
冷房の温度など職場で決める。勉強会実施	

●市（行政）課題

地熱発電のようにゴミを燃やす力を変える	ゴミ分別の推進。ペットボトル用のカゴ
地域によってゴミ分別が異なる	始発駅の活用
街路樹を増やす	CN に向けたまつづくりの具体化
市民への対策手段をどう伝えるか、どう見てもらえるか	情報発信の方法について
分別の効果。CO2 削減	還元があったらやる。良いことアピールすべき
通知方法（今日のようなプッシュ通知）	市民が気軽に取り組める施策の周知を強化する
他市の取組知りたい	見える化
野川でのビオトープ活用	ビオトープ作り思い出になる→大人になっても思い出。意識付け
小中学生への環境教育強化。ビオトープなど。未来の小金井市民の意識を高める	イトーヨーカ堂等アイコンになる企業との協力したイベント。駅前広場を活用した取り組み
再エネ・省エネの勉強会の開催	

●その他

再エネコストへの不安	資料や手紙など紙が多い→PDF などのデータ化
学校での授業が分からない（子どものしていることが分からない）	学校で受けた教育が大人までつながっていない



【D グループ】

●市民の課題

カーボンニュートラルが自分ごとにむずびつかない	個人同士の地域間のつながりの薄れ（人と人 人と地域）
再エネ・省エネ コストがかかるイメージがあり着手できてない 優先度低い	具体的に何をすれば良いのかが分からない
自分事として考えられているか	できることって何？
イベントの開催	ごみへの意識

●事業者の課題

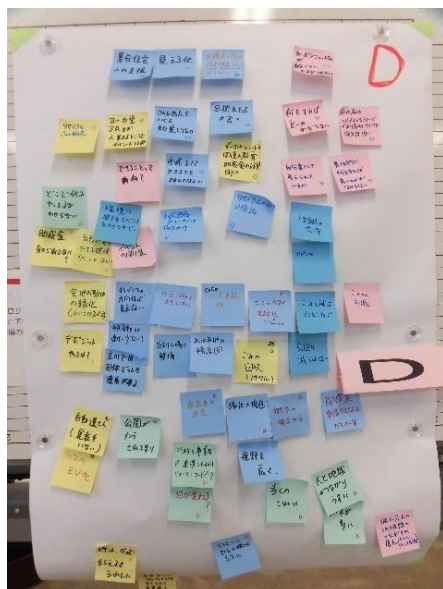
事業者と協力する時当てはまる事業者は呼んでるのか	ヨーカ堂 JR とか人の集まるところでイベントしては？
カーボンニュートラル関連の教育 助成金の活用 周知	気軽に参加できる環境イベントほしい
助成金知られてない？	宅地の敷地の緑化（小さなスペース）
デポジットやっては？	ごみの改修（リサイクル）
自動運転（運転手いない）	バスの EV 化
ポイント、グッズもらえるとうれしい	リサイクル品の販売

●市（行政）課題

太陽光パネルの設置推進していること のアピールがたりない	助成金申請かんたんに マイナンバー 等
集合住宅への支援	目標あった方が良い
これをやったらいくら 効果しりたい	市民としてできること PR してほしい
主要道路の渋滞	社会教育グループへの働きかけ
リサイクルへの優遇	アピール
他県・海外を体感してもらう	まちづくりの方向性が見えない
市民活動のとの連携少ない	CoCo バス本数増
成功事例の横展開	駐輪場の整備
ごみを減らすインセンティブ	ごみの分別の有効性アピール
自転車の逆走	公園は減らしたくない
樹木の植えかえ	緑化の推進
学校での教育の充実化	見える化

●その他

公園がメンテされてない	行政と事業者が連携したイベント リ ユース・フードバンク
+1℃で何が変わる？	歩くのこわい
人と地域のつながりやすい	古い木が多い



【E グループ】

●市民の課題

家庭内での省エネ戦略	エアコン・照明のムダをなくす
使い捨てのプラ・紙・木用品の使用を減らす	町会活動の周知・活用＝環境企画・イベント
バスの運行量減少&値上げ	

●事業者の課題

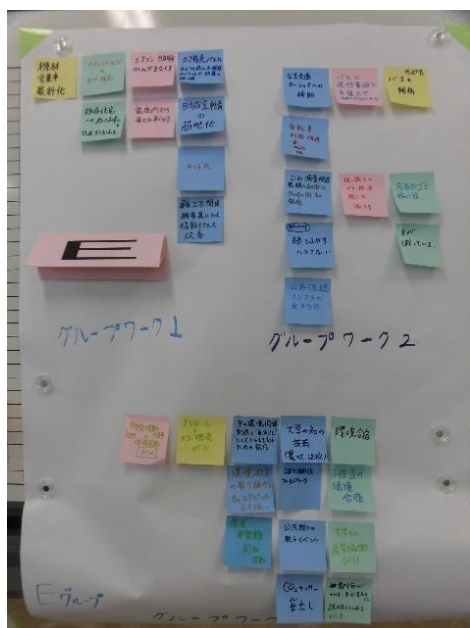
機材 営業車 最新化	バスのサービス維持
まちおこし+エコ・環境のイベント	

●市（行政）課題

太陽光パネルなどの再エネ機器のメリットや設置についての説明	再エネ関連補助事業について、情報アクセスしやすいように改善
公共交通、カーシェアへの補助	ごみ減量関連機器購入助成についての周知徹底
助成金申請方法の簡略化（マイナンバーを使った方法など）	助成金申請の Web 対応
自転車利用促進 道の整備、駐輪場の整備、坂への対応（電動自転車への補助など）	緑を増やす 減らさない
公共施設インフラの老朽化（エコフレンドリーな施設への建て替え）	大学の知の共有（農工大、法政大などの先生による出前授業）
公民館での親子イベント	公園を活用したフィールドワーク
環境教育の取り組みをもっとアピールしてほしい	環境楽習館 周知活動
CO2 センサー貸出し（森などで CO2 吸収効果を目で見る）	市の環境関連計画を“自分ごと”としてとらえてもらうための発信

●その他

コインパーキングの EV 充電対応	既存住宅への再エネ導入方法を周知
市民のゴミ拾いの日の設定	木が減っている（土地を分割する開発により）
大学との産学協働イベント	環境合宿
子供達の環境合宿（小金井市の公園を活用した林間学校のようなイベント）	専門家が付いて、子どもたちに説明してくれるイベント



②グループ発表要旨

【A グループ】

情報提供と交通に関する課題を中心としていた。まず、情報の入手方法については、特に転入者が多い小金井市において、アクセスしやすい情報媒体の拡充が求められている。世代に応じた情報提供の工夫が必要とされ、年配者は広報誌やインターネットを、若者はSNS など異なるツールを検討していくことが重要である。交通に関しては、渋滞が多いことから、コミュニティバスや自転車利用の促進が必要であり、特に、コミュニティバスの認知度向上やEV、自動運転の導入や、自転車の駐輪場やシェアサイクリングの設置場所の拡充が求められている。



【B グループ】

目に見える課題としてごみ問題、再エネおよび省エネの問題、モビリティの課題が挙げられた。特に、ごみ問題は市民の実感として強く感じられている。再エネについては値段の高さや住宅購入時における太陽光パネル設置に関する情報不足が課題となっている。また、自転車置場の不足や CoCo バスの路線図に関する情報がどこにあるのかわかりにくいということが問題となっている。これらの問題に対して、特に市民の意識向上が必要であり、自分ごととして環境問題に関わる意識を高めるために、市としてPRの強化や環境活動のスマートさの向上が必要とされている。さらに、子ども向けの教育やゲーム感覚で環境に関わる機会を提供することも必要と考えられる。



【C グループ】

再エネや省エネ設備の設置、交通、リサイクル、市民の意識、教育の5つの課題が挙げられた。再エネや省エネ設備についてはコストやスペースの問題があり、意識の高い人々に依存している現状があるため、補助などの対応が求められている。交通面では、オフピーク通勤の推進や交通渋滞対策に関する道路整備、武蔵小金井駅が始発駅である特性を活かした政策の検討が求められている。リサイクルに関しては、ごみの分別や食品ロスの削減に市民の意識向上が必要とされている。また、市民の認知度の低さが政策の効果を妨げていると考えられることもあり、情報発信の方法の見直しが求められている。最後に、若い世代への環境教育が重要であり、楽しい体験を通じて環境意識を高めていき、大人になってからの取組にもつなげていくことが必要とされている。



【D グループ】

再エネや省エネへの取り組み方、交通、環境教育、情報発信の4つの課題が挙げられた。再エネや省エネについては、具体的な行動に繋がるような分かりやすい情報の提供が求められている。特に、家庭や職場でできる省エネ対策を明示することが必要とされている。交通面では、コミュニティバスや自動運転技術の導入が必要とされている。環境教育については、市民活動と行政が連携を図っていくことが求められている。全体として、情報の見せ方や発信方法が課題であり、小金井市のまちづくりに関して、市民の理解を深めていくために、緑地の活用やまちづくりの方向性をより明確にすることが必要とされている。



【E グループ】

再エネや省エネ、交通、ごみ問題、まちづくり、環境教育の5つの課題が挙げられた。再エネと省エネについては、メリットの情報提供が不十分であることや、助成金申請の手続きが複雑であることが課題とされている。マイナンバーの活用など、デジタル化の推進が求められている。また、EV駐車場の増設や家庭での電力使用の意識向上も重要とされている。交通面では、カーシェアの不足や市営バスの運行減少が問題であり、バスの利用促進や自転車利用の促進が求められている。ごみ問題では、購入助成の周知が不足していることや市民の意識の不足が問題であり、ごみ拾いの日の設立など、意識向上を図る取組が求められている。まちづくりについては、緑地の保護やエコフレンドリーな公共施設の必要とされている。環境教育では、地元大学との連携や親子で学べるイベントの実施、緑を生かした環境合宿などが求められている。全体として、市民が具体的に取り組むべき行動や情報の発信方法を工夫することが必要とされている。



③グループワーク総括

小金井市では特に情報提供と交通が課題となっています。転入者に向けたアクセスしやすい情報媒体の拡充が求められ、世代に応じた情報提供の工夫が重要です。交通面では渋滞を解消するため、コミュニティバスや自転車利用の促進が必要とされており、特に、バスの認知度向上や EV、自動運転技術の導入が求められています。

その他の課題としては、ごみ問題や再エネ、省エネの問題があり、市民の意識向上や、環境教育や PR の強化、子ども向けの体験学習も必要とされています。全体として、具体的な行動に繋がる情報発信や市民の理解を深める取り組みが求められています。

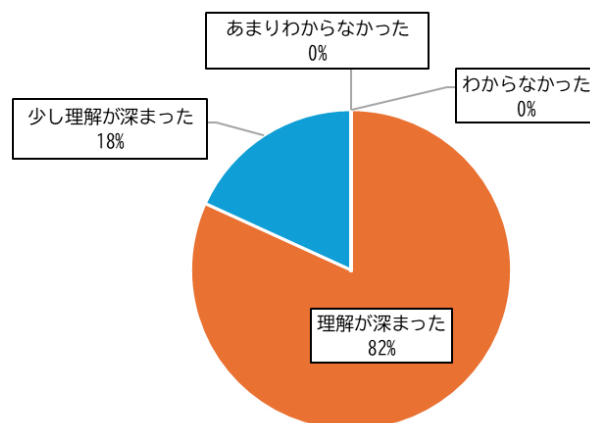
グループワークから抽出された課題等

No.	項目	課題等
1	再生可能エネルギー	・ソーラーパネルのイメージ改善 ・再エネ居住の拡大とコスト問題 ・太陽光パネルの設置推奨エリアの周知 ・知識不足
2	省エネルギー	・省エネ機器の導入 ・家庭内での省エネ戦略 ・知識不足
3	公共交通	・コミュニティバスの認知度と利用状況 ・バスのサービス維持と運行量減少
4	移動手段 (EV 化、自転車など)	・自転車置き場の増設 ・シェアサイクルの拡充 ・EV 化とカーシェアへの補助 ・コインパーキングの EV 充電対応
5	ごみの減量化とリサイクル	・ごみの分別推進とリサイクルの意識向上 ・不用品リサイクルとシェアリングの拡大 ・ごみ減量関連機器の購入助成
6	緑地の保全・創出	・緑の保護と拡大 ・公園でのイベントやフィールドワーク ・街路樹の増加と緑地化の整備
7	意識啓発と教育・学習	・環境教育の充実と体験活動の提供 ・自分ごととしての意識改革 ・地域間のつながりを深める施策 ・市民活動との連携不足
8	情報発信とコミュニティ	・市の情報アクセスの改善 ・SNS などでの情報周知の強化 ・ワークショップやイベントの共催 ・補助金の周知と申請方法の簡略化 ・助成金の情報アクセスの改善 ・学習するメリットの周知 ・ネット上でのコミュニティ形成

7. 第1回小金井市気候市民会議アンケート結果

質問1 本日の講演「気候変動問題の現状と将来、その対策」はいかがでしたか？

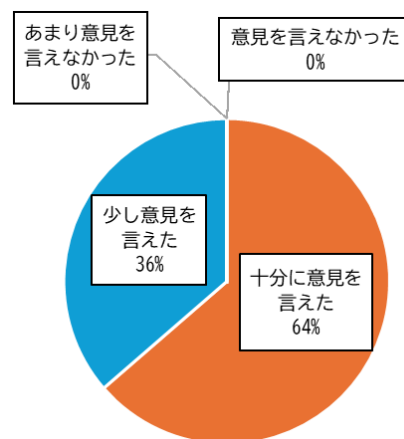
回答項目	回答数
理解が深まった	18
少し理解が深まった	4
あまりわからなかった	0
わからなかった	0



【その他】 田中先生の講義が勉強になりました。

質問2 本日のグループワークはいかがでしたか？

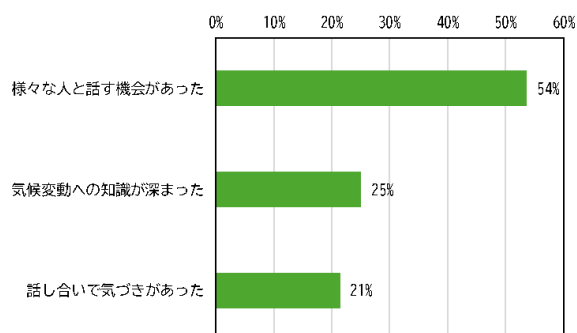
回答項目	回答数
十分に意見を言えた	14
少し意見を言えた	8
あまり意見を言えなかった	0
意見を言えなかった	0



【その他】 ・ テーマが広いので、テーマを狭めると良かった。
・ ファシリテートが入っていただきコントロールいただきました。

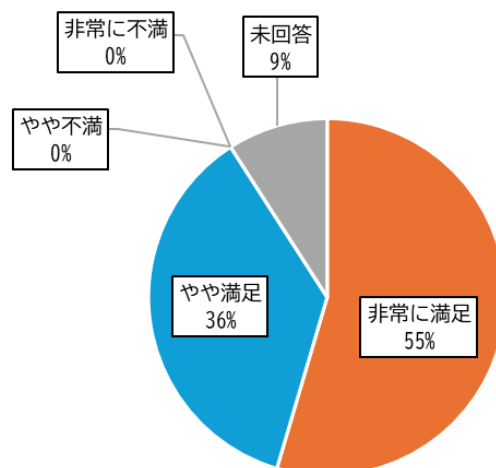
質問3 今回(第1回)の気候市民会議で良かったことは何ですか？

回答項目	回答数
様々な人と話す機会があった	15
気候変動への知識が深まった	7
話し合いで気づきがあった	6



質問4 今回(第1回)の気候市民会議の満足度はいかがでしたか？

回答項目	回答数
非常に満足	12
やや満足	8
やや不満	0
非常に不満	0
未回答	2



【その他】・様々な人と意見交換できた。

質問5 次回以降の気候市民会議に求めることがあればご自由にお書き下さい。
(自由意見)

私たちができることをもっと具体的に知りたいです。市民への発信の仕方もみんなで考えればより案がより出てくるのではないのでしょうか。
他の市などの良い例の紹介
色々年令、職業の方と話せて多角的な意見を聞くことができ自身の意識も高められました。地域のつながりにもなるので、積極的に参加しようと思いました。
貴重な機会でした。ありがとうございます。安心して参加できました。これから参加し続けたいです。

質問6 その他、ご意見・ご感想をご自由にお書き下さい。(自由意見)

課題と言われてもピンとこないまま参加したが、話し合いをすることで気付くことが多く興味深かった。
意外と皆さんしっかりご意見があって面白かったです！教授の話はもっと長い時間ほしかったです。
田中先生のお話をもっとうかがいたかったです。
グループワークでの席替えはしない方が話に厚みが出る様に思いました。
グループワークが楽しめました。自分の知見も深まりました。自分の行動に反映させたいです。

◆ ご質問と回答

ご質問	回答
(田中先生ご講義) 気温上昇に伴う、温暖化への負のフィードバック（植物の繁盛による CO ₂ 回収促進や、宇宙への熱の放出など）が一部働くように思うのですがありえますでしょうか？また、あり得る場合にもその上で、温暖化が進むだろうと推測されているのでしょうか？	温暖化が進むという将来の影響予測の中には見込まれております。 通常では、太陽からの熱によって、地球の表面が温められ、その後、宇宙へ熱が放出されますが、二酸化炭素やメタン、一酸化二窒素などの温室効果ガスによって、

	宇宙へされるはずの熱が蓄えられることで、地球上の気温が保たれています。 近年では、地球上の温室効果ガスの濃度が高まってきていることにより、宇宙へ熱が放出されていますが、地球上で蓄えられる熱が多くなり、温暖化が進んでいるという状況です。 また、植物の繁盛などによる CO₂ 回収促進に関しまして、現状では、温室効果ガスの排出量が、植物による CO₂ の吸収量などを上回っているため、地球上の温室効果ガスの濃度が高まっています。 小金井市の目標でもあるゼロカーボンシティが達成されることで、CO₂ 排出量が実質ゼロという、温室効果ガス排出量と吸収量が均衡がとれている状態（カーボンニュートラル）となり、やっと温室効果ガスの濃度の上昇が止まります。 気候変動の将来予測に関しては、温室効果ガスの濃度別に実施しているものであり、SSP1-1.9 で示されているように、温度上昇を 1.5℃に抑えるためには、今世紀半ばまでにカーボンニュートラルを達成する必要があるといわれています。
（小金井市の現状について） ・現在の小金井の温暖化対策について都の他市区町村と比べて進捗はどのようなか。 ・	多摩地域の中で突出して進んでいるというものではありませんが、市長と教育長の連名という全国でもあまり例をみない共同宣言での「気候非常事態宣言」（令和 4 年 1 月）に記載があるとおり、自ら積極的に取り組もうとする気持ちや姿勢を大人だけでなく幼い頃から醸成するために「環境教育」の充実を図っており、特に力をいれています。 （間伐材伐採体験を行う森林教育、環境啓発関連ワークショップや「地下水に関する講座」の他、小学校への出張講座の実施等様々な啓発事業を展開しています。） CO₂ 排出量やエネルギー消費量についても削減量が他自治体と比較して突出しているものではありませんが、全体の約半数が民生家庭部門（一般家庭）であるという市域の特徴があるため、一人一人の意識改革、行動の実践により、CO₂ 排出量削減に貢献できるのではないかと考えております。
現在の小金井のエネルギー消費削減量の状況と、減少している部分の主な要因はなんでしょうか？	エネルギー消費量削減の現状について、小金井市地球温暖化対策地域推進計画の基準年度（2013 年度）の 3,409TJ と比較し、最新の数値（2022 年度）は 3,229TJ となっており 5.3%削減が図られています。 2022 年度は、新型コロナウイルスによる第 6 波～第 8 波の頃であり、行動制限

	があった時期であることも大きな要因ではあると思われますが、家庭部門として、省エネ行動の実践（省エネ家電への買替え等）もあり、削減が図られているのではないかと推測されます。
（その他意見・感想） コンサルが入ってディスカッションしたので、そもそも地球温暖化対策をする・しないの点についての議論を飛ばしている点が気になった。アメリカのように強い小金井をおし進めるという考えもあって良いのではないか。（都の方針があってそこを逆らえないということでしょうか。）	地球温暖化対策については喫緊の課題であると認識しており、基礎自治体として市民の皆様、事業者の皆様と協力し、対策を進める必要があると考えております。 都としても 2000 年度比で 2030 年度までにカーボンハーフ（50％削減）、2050 年度までにゼロカーボンの目標を掲げており、市としても追随する考えです。 オール東京全市区町村一丸となって温暖化対策に取り組んでいる状況です。